



R I. 第2620地区 静岡第2分區  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第1837号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352  
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル  
TEL (055) 972-2122  
会長 矢岸 克行 幹事 森崎 祐治



広重版画より 三島 朝霧

## 第1899回例会

2011.9.1曇

### 司 会

石井良衛君

### 国歌斉唱

四つのテスト

### ロータリーソング

「奉仕の理想」  
指揮 瀬川幸信君

### 会長挨拶

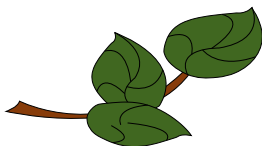
会長 矢岸克行君

皆様こんにちは。

本日は水口ガバナー補佐をお迎えしての例会です。後ほどお話をいただきます。水口ガバナー補佐よろしくお願ひします。

さて、月も変わり9月に入ってまいりました。210日とはよく言ったもので、今日は台風12号がいよいよ接近してまいり、終日雨模様です。それも大分激しく、くれぐれもご用心して下さい。最近では社会資本が整備され、治水、治山対策も進み、昔のように大きな被害を出す事がなくなってまいりました。しかし、災害に備えてしっかり対応していただきたいものです。

先月は会員増強月間でしたが、増強は一年中続くものです。本日は伊丹さんのゲストの久保田さんがお見えになっております。どうかゆっくり会の雰囲気を楽しんで下さい。



### “こんにちは、ようこそ”

ゲスト 久保田敦さん(伊丹君のゲスト)  
ビジター 水口正宏ガバナー補佐(御殿場RC)  
豊山徹也君  
(ガバナー補佐事務局・御殿場RC)

### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	29/43	67.44%	38/43	88.37%
今回	43/48	89.58%	会員総数	51名

欠席者 石井(彰)君、岸田君、橋本君、原君、古川君

### 幹事報告

幹事 森崎祐治君

- 8月27日は社会奉仕委員会による献血支援の社会奉仕活動お疲れさまでした。
- 例会変更  
三島RC  
9月28日(水) 米山記念館  
せせらぎ三島RC  
9月16日(金) ガバナー公式訪問(三島プラザホテル)  
9月23日(金) 祝日休会  
9月30日(金) 特別休会

2011~2012年度  
国際ロータリー会長  
カルヤン・パネルジー

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

## おめでとう

会員誕生日	諏訪部(照)君、柳田君、鈴木(正能)君、平野君
入会記念日	黒田君、渡辺(雅)君、矢岸君、室伏君、諏訪部(敏)君
奥様誕生日	栗原君、野口君、諏訪部(照)君、室伏君
結婚記念日	佐々木君

## スマイルボックス

- ◆室伏君、昨夜「お菓子放浪記」の試写会が行われました。諏訪部敏之さん、田熊さん、発起人の大役お疲れ様でした。沼津市・清水町・長泉町でも10月に上映されます。ぜひご覧下さい。
- ◆野田君、日本に同姓の首相が誕生。何はともあれスマイルとしましょう。でも「売り家と唐様で書く三代目」とならぬよう祈るのみ。草葉の蔭で松下幸之助翁がどう見ておられるのやら。「どじょうに徹しろ」あれ私の空耳か。

## 理事会

〈協議事項〉

- ①(財)米山梅吉記念館賛助会費について本年も全員加入する。
- ②大場初代会長墓参について  
H24.3.22の例会時を予定する。
- ③地区大会について(11月19日~20日 沼津)  
9月16日までに仮登録をする。
- ④ガバナー公式訪問(9月16日)について確認。
- ⑤8月27日の献血奉仕活動参加者を例会出席扱いとする。
- ⑥会員慶事を10月から原則毎週実施とする。
- ⑦今月の予定  
9月1日 水口ガバナー補佐訪問  
9月8日 夜間 親睦例会  
9月16日(金)例会日変更 積ガバナー公式訪問  
9月22日 通常例会 卓話 石川直樹君  
9月29日 (特別休会)

## 卓話

### 江戸商人の基本にある仏教の教え

静岡第2分区ガバナー補佐 水口正宏君

江戸商人を代表する近江商人が、経営の基本とする家訓や遺言の中には、仏教の教えが色濃く残されている。そのもっとも顕著なものに、中井源左衛門の「金持商人一枚起請文」がある。それについて、平田雅彦氏は次のように述べている。

「近江商人として成功した人に中井源左衛門(1716~1805)がいる。彼は13歳で両親を亡くした。それから行商の道に入り苦勞した。関東、信濃、甲斐、奥羽の各地方を足で廻り、それぞれの地域にお得意様を拡げていった。それから18年、彼が郷里にやっとの思いで本店と新居を構える事が出来たのは31歳の春であった。しかしそれから取扱い品種も太物、菜種、米、醤油とあらゆるものに手を伸ばし、90歳で亡くなるまでに11万5000両、今の金に換算すれば約50億円という大きな富を築いた。まさしく長者になったわけである。その中井源左衛門は、亡くなる直前、子孫のために商人の在り方を短い文章で書き残している。彼は日ごろ浄土宗の開祖である法然上人を厚く信仰していた。そのため法然上人が遺した『黒谷上人一枚起請文』になぞらえて、それを『金持商人一枚起請文』と名づけた。」(前掲ードラッカーに先駆けた『江戸商人の思想』)

ここにある黒谷上人一枚起請文とは「法然房源空述。一枚の紙に往生浄土の要義である安心・起行を、仮名まじりの平易な文章をもって記したものだ。この起請文とは釈迦・弥陀二尊を請い、偽りないことを誓った文という意味である。1212年、京都市東山華頂山の太谷の禪房において、つねに法然上人の給仕をしていた弟子源智が、法然の命終の近い事を感じ取り、師匠法然にたいして自筆による浄土宗の肝要を懇望したので、これに応じてしたため授与したのが『一枚起請文』である。多くの人々が『金たまる人は運のある人だ。自分は運がない』などと申されるが、それは愚かなことであり、誤りである。運というのは適当でない。金持ちになろうと思えば、酒宴遊興を断ち、奢りを禁じ、長寿を心がけ、始末第一にして商売に熱心に取り組む以外に方法は無い。このほか貪欲になれば、先祖のお慈悲にそむき、天地自然の道理にも外れるということも注意しなければならない。また始末と吝嗇とは異なるものである。吝嗇になれば仏の光は消えてしまう。始末をすればその光明は仏の世界、極楽浄土を照らすであろう。このような心がけで行動する人には、5万、10万のお金ができるのは間違いないだろう。ただし、その国の長者といわれる程の人になるには、一代では難しい。二代、三代と善人が出ることによって初めてできる事である。そのためには人に気づかれない徳を積み、善事を重ねる、陰徳善事、この心がけが大切である。後の子孫の奢りを防がんとために、愚老の思いを書き記す。」と意識している。

※紙面の都合で委員会報告は次号に掲載します。  
(週報担当：田熊幸代)